

下榎交流センターだより

編集 日野町下榎交流センター
〒689-4526 日野町下榎 157 番地 1
電話：72-1191 (FAX 兼)
E-mail：rinpokan@town.tottori-hino.lg.jp

榎の実学習会閉講式 ～9年間の振り返り～

2月12日、下榎交流センターで「令和6年度榎の実学習会閉講式」を行いました。

初めに安達教育長が、「9年間お疲れ様でした。よくがんばりました。9

年間の成果を今後活かしてほしいと思います。人権の学習もしてきましたが、部落問題だけでなく、いろいろな人権問題があります。これから先、他の人が悩んでいるときにアドバイスができるような人に成長していつてくください」と話されました。

次に、9年生が1年間の学習成果と、9年間の振り返りの発表をしました。

二人それぞれの感想として、

■わたらの歴史を学び、日野町で鉄が造られていたと知り、もっと知りた

いと感じた。
■価値のないゴミを価値あるものに変えること、迷うことは人間らしいと知った。

■感謝の気持ちを持つことが大切。三日坊主はダメではないとわかった。

■県外から日野町を選んで入学し、自分たちも気



付けていない日野町の魅力を伝え、盛り上げる活動に感動した。

■都会でしかできないこと、この町にしかできないこと、多様性に触れる大切さを知る。

■無理そうなことでも取り組んでみるのが大切と分かった。

最後のお楽しみ会は、快く参加してくれた日野高生4人と一緒に作って、交流を深めることができた。そんな数々の思い出に残った感想を含めた発表でした。

そして9年間の振り返り、「1年から9年間の思い出・印象に残っていることは、広島

研修です。二人で9年間取り組んで来たからこそ続けることができた。交流センター職員、先生方の支えがあったこと、この繋がりを大切にこれから的人生を生きていきます」「学校では学ぶことができないことをこの学習会で学ぶことができ、皆さんの思い出ができました」と述べ、最後に二人で「9年間ありがとうございました」と締めくくりました。

次に、柴田支部長から「9年間お疲れ様でした。すばらしい発表でした。文集も読ませていただき、二人のがんばりや経験、いろいろな思い出が書かれていて感動しました。また、二人を見守ってくださった先生方にも非常に感謝しております。学習会が始まって50年に及ぶ歴史があります。諸先輩方が一生懸命学んできました。それが、今回で一度途絶えるのは寂しい思いがあります。50年余り続けてこられたのは、歴代の先生方、保護者の方の協力があったの

こと。そのことを忘れな

いで、感謝の気持ちをもつて新しい一歩を踏み出し

てほしいと思います」と

激励していただきました。

最後に、砂流校長が「9

年間お疲れさまでした。

長年続いた学習会が、今

回で休止となると聞いて

いますが、みなさんの先

輩方で学習会に通った人

がたくさんいて、歴史あ

る学習会です。二人にお

願いがあります。これで

終わりではなく、どんな

形であれ、この下榎交流

センターに来てください。以前、高校生も来ていました。後輩たちに伝えていつてほしいと思います」と話され、「そして、下榎交流センターの職員の方にも、今までのような形でなくても、形は変わっても、いつか学習会を復活させてください。お願いいたします」と、熱い思いを下榎交流センター館長をはじめ職員に託されました。

今年度の学習会は、今までのような人権題材の資料で学ぶのではなく、日野町在



住の方の生の声で学ぶ人権学習と教科学習に加え、もの作り体験や先生や高校生とのコミュニケーションで絆を深める学習を一年間にギュッと詰め込んだものでした。

これから二人は、また新たな場所ですタートしますが、榎の実学習会で学んだ9年間が、この先の人生に役立つ学習となってくれることを願います。

また、さまざまな学習会事業にご協力いただき温かく見守ってください。た教職員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

第6回「先人の苦勞をしのんで」

文：町教育委員会事務局

日野町 歴史の窓

日野郡は仁多・庄原・新見の3郡市に通じる交通の中心地であり、古くから多くの人々や物資が往来し、とくに富田街道、日野街道、出雲街道は歴史の変遷のなかで重要な役割を演じてきました。今でも四県四郡市総合体育大会が開かれるほど繋がりが強い地域です。

いまの国道や橋、鉄道などを当たり前の存在と見てみると、それができるまでの先人の思いや喜び、またその苦勞を知らないままに過ごしていることになります。

根雨は宿屋が多くて賑わっていただけではなく、幕府や藩からの行政文書などを隣の宿駅（二部・板井原）に確実に送る重大な責任がありました。そのため運搬用の馬や作業員を常設しなければなりませんでし

た。松江の殿様が参勤交代の道中で休泊したり、幕府の視察団などが使うための本陣が置かれた町でしたので、住民の負担はとても大きいものでした。

黒坂は城下町。侍は広い屋敷を与えられ、民衆は狭い地域に住まわされました。そのうえ、道に面した各家の間口の幅を基準にして、城や陣屋、侍屋敷の整備などの奉仕作業を受け持ちました。

来る4月1日は、上菅駅開業百周年の記念日です。黒坂駅と生山駅との中間にぜひ必要との官民による請願運動と献金や労力奉仕により設置された駅です。記念碑には住民の喜びが刻まれています。

このように各所には道標や看板、石碑や一里松跡、傍示杭の跡などが残っています。

暖かくなったら地図を手に、先人の息づかいにふれるまち歩きをなさいませんか。



▲上菅駅新設記念碑

～こんにちは、消費生活相談員です～
知って安心！消費生活のはなし



これから18歳になるきみへ！社会には契約がいっぱい

1月29日、日野高校1年生を対象に消費生活相談員が「契約の基礎」について授業を行いました。

一契約の基礎とは？トラブルを実際に体験一

成年年齢が18歳となり、高校生であっても契約についての自覚と責任が問われる時代です。

実際の契約についてのトラブルを体感してもらうために、授業内では「訪問販売」「通信販売」「副業詐欺」などの事例を読み合わせ、寸劇を演じました。

配役の生徒たちの臨場感あふれる演技で、教室は盛り上がりました。



日野郡3町では、第1・2・3水曜日に相談員が輪番で対応しています。（くらしのカレンダー参照）
★相談は、消費生活相談窓口（役場産業振興課内）（電話 72-0336 または局番なしの188）へ！